

# 農業の魅力発見！南紀みかん援農隊プロジェクト

## 活動を通して学んだこと

地域や人の後に立つ仕事を学ぶことをめざす。そんな思いを強くした体験でした。在学中に夢中になれることを見つけたいと思い、プロジェクトに参加。活動の一環である農作業体験修では、みかんの裏側にある、たくさんの農家の思いと苦労に触れることができました。現場に足を運び、体験して感じたことを仲間とディスカッションした5日間は、将来、への役に立つ仕事をしたい私にとって貴重な経験になりました。

TEAM DATA
メンバー数 9名
活動場所：東紀州地域 (熊野市および御浜町)
実施主体：三重県農林水産部担い手支援課
担当教員：千田 良仁 (現代日本社会学部)
活動年度：R01, R02



## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

### 活動の目標

私たち学生は農作業体験を通じて、学生目線での活動モデルの提案をはじめ、隊員の募集方法、地域や農業の魅力を発信するためのおもてなしの方法などを、地元のJA、市町、農業者などと一緒に協議・検討していきます。

### 月別活動

(6月) 第1回CLU活動打ち合わせ

(8月) 現地ヒアリング

(9月) 現地支援活動(4泊5日)

### 取り組んだこと

収穫などの農作業を体験した後、作業する環境や作業内容の説明の仕方、労働単価などは、学生にとつて適切だったのか話し合いました。また、学生が長期間滞在するために必要な宿泊施設やライフラインの設備などについても確認。今後、多くの学生に参加してもらうためにどんな環境や工夫が必要なのか、地域や農業の魅力を発信する「おもてなし」についても意見交換しました。

### 気づき

- ・隊員募集の方法だけでなく、「次も参加したい」と思ってもらえる仕組みづくりが大切。
- ・農家さんによって規模も雰囲気も違う、それぞれのこだわりがある。
- ・プロジェクトは持続しなくては意味がない。
- 現在、みかんを活用した商品づくりや販売方法など、次のステップとなる企画の提案に取り組んでいます。



(2月) 活動報告会

## 実施主体からのコメント

三重県農林水産部担い手支援課  
石原さん

作業のお手伝いやアイデア出しなどすべての活動に積極的に取り組んでいただきました。学生目線からの意見やアイデアも大変参考になります。引き続きよろしくお願ひいたします。

## 担当教員より

現代日本社会学部 千田 良仁  
今年度はコロナの影響もあり計画通りの活動ができなかつたこともありましたが、実際に現地に行き、農家のお手伝いをすることで、地域との関係を築き、地域の課題を実感することができました。引き続き学生目線での様々な提案を地域に投げかけてほしいと思います。



## 成果物／制作物